

～食農産業クラスター(愛知県豊橋市)～

概要

豊橋市は、大葉、うずら卵、キャベツ、トマト、デルフォニウム(花)を中心としたさまざまな農畜産物を生産している全国有数の農業産地である。

また、食品の製造から小売りに至る食品産業や農業機械、農業資材等の農業関連産業の集積地でもある。さらに豊橋技術科学大学には、先端農業バイオリサーチセンターがあり、地元企業と共同研究を行っている。

県農業総合試験場などの研究機関や産学官の連携をサポートする支援機関の集積地でもあり、産学官連携によるクラスター形成につながる十分なポテンシャルを有している地域である。

豊橋商工会議所が当地域の金属加工300社の技術力調査を実施し、その中に農業分野に特化した全国有数の企業が存在することが判明した。その事実を目につけ、平成13年に豊橋市で「IT農業研究会」を創設、平成19年には「食農産業クラスター推進協議会」を創設。現在、100社が参画しており、主な関係機関は、(株)サイエンス・クリエイト、豊橋市、豊橋技術科学大学、豊橋農業協同組合等である。

協議会では、参加した100社の課題調査を進めながら、具体的開発テーマを絞り、チーム編成をしている。平成19年は6分野を定め、(1)地域畜産物活用の加工品開発、(2)地域企業の先端技術を活用した農業・食品間き開発、(3)(1)(2)の販路開拓、(4)海外マーケット開拓の農産物輸出品育成、(5)地域農産物の地域内マーケット開拓と育成、(6)会員向け営農・研究開発情報提供を主眼に活動。6分野にクラスターマネージャーを配置し、個別テーマごとの推進計画を立案してクラスターマネージャーが支援する。

100社2,000億円の売上高、5,000人の雇用創出を目指している。



愛知県豊橋市



地域活性化への効果

- ・新連携事業を活用し、低温スチーム加工による食品製造販売。(株)T.M.L.とよはしの創業。従業員2名、パート10名の雇用創出。
- ・センシング技術活用により土壌センサー、大葉選果機開発、金属異物検出機開発等を行う。
- ・次郎柿、メロンをバンコク及び香港への輸出を模索中。
- ・休耕地オーナー制度を実施し、休耕地活用事業を展開。

課題とその解決に向けて

- ・後継者不足、遊休農地の増大、輸入農産物の増加による農畜産物の価格の下落等といった農業を取り巻く厳しい状況の中で、食農産業クラスターの発展を図り、新商品開発、販路の拡大、地域ブランドの育成を図ることが課題である。



～ 彩都ライフサイエンスパーク形成 ～

概要

大阪北部(彩都)地域知的クラスターには、大阪大学、国立循環器病センター、医薬基盤研究所をはじめとして優れた研究機関、我が国有数の製薬企業等が集積している。

こうした地域の研究ポテンシャルを活かして、生体高分子を医薬品とし、あるいはそれを標的とする画期的新薬(分子医薬)を創り出すために利用できる先進的な研究を推進するとともに、研究成果の技術移転やバイオベンチャー企業の創出を支援することにより、大阪北部(彩都)地域に、世界的な研究成果や国際競争力のある産業を生み出す「彩都バイオメディカルクラスター」の形成を目指している。

このクラスターを形成するため、「分子医薬創生に向けた先進的な研究開発」を機軸として、5年間研究を実施する「産学官共同研究」を3テーマ9課題、原則的に2年間で実用化を目指す「実用化研究」を13課題、神戸地域と連携した「関西広域クラスター共同研究」を1課題、「関係府省連携研究」(知的クラスター産業クラスター連携研究)を1課題、合計24課題の研究を実施した。

また、研究事業以外にも、バイオビジネス及びバイオ特許に関する人材養成講座を開催し、バイオビジネス戦略やバイオベンチャーの経営がわかる人材育成を行うとともに、彩都の情報発信などの事業を積極的に実施してきた。さらに、隣接する神戸地域知的クラスター本部と関西広域クラスターを形成し、研究、人材育成などで密接に連携して、国際競争力を有するスーパークラスター形成を目指した活動も行っている。

なお、バイオベンチャーの上場益などをもとに、地元ベンチャーキャピタルが設立され、そこがバイオベンチャーに投資するなど、投資資金が循環している点も特徴的なところである。



地域活性化への効果

主な事業成果

未来医療のための分子医薬創成技術開発

HVJ(センダイウイルス)からウイルスゲノムを取り除いた殻(ベクター)には、種々の遺伝子を入れ目的の細胞に運ぶことができる。このベクターを利用して、癌や虚血性心疾患などの有効な治療技術の研究開発を行った。

抗感染症薬の新戦略(一免疫との共同作用一)

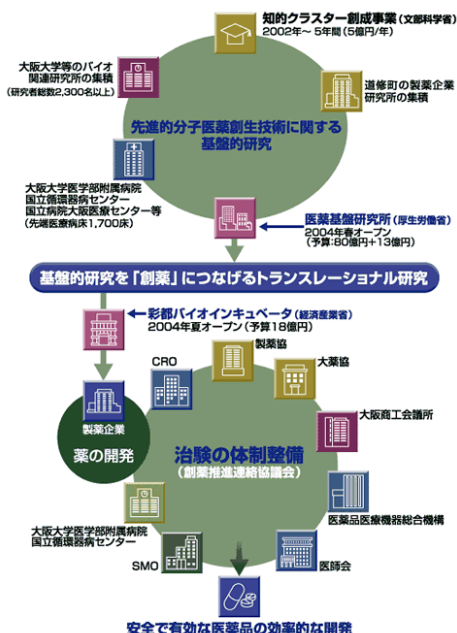
従来の化学療法では効果がなかった感染症に対して化学療法と生体の免疫反応を組み合わせた新しい感染症の治療方法を確立し、耐性菌がでにくい治療法の開発や化学療法の効力を増すワクチン技術の開発を行った。

ベンチャー企業の起業4件、国内特許出願40件、国際特許出願13件

課題とその解決に向けて

・起業されたバイオベンチャーのさらなる強化が課題である。

・そのために、国内クラスターや海外クラスターとの連携強化による、必要な人材や資金の確保が必要である。



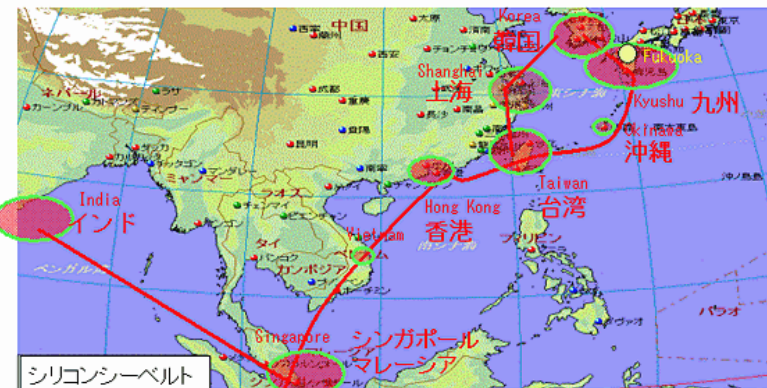
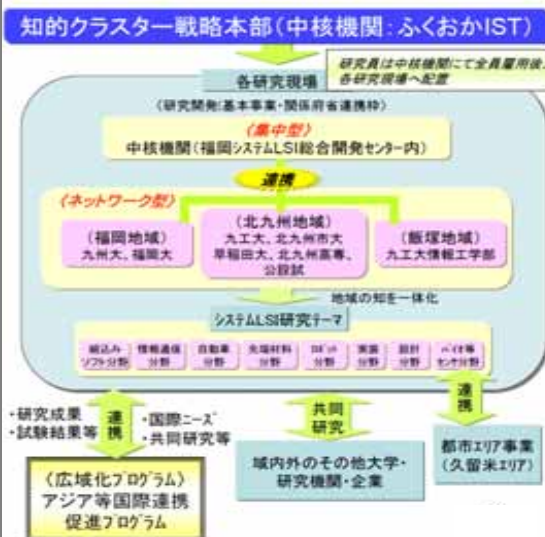
～シリコンシーベルト福岡プロジェクト～

概要

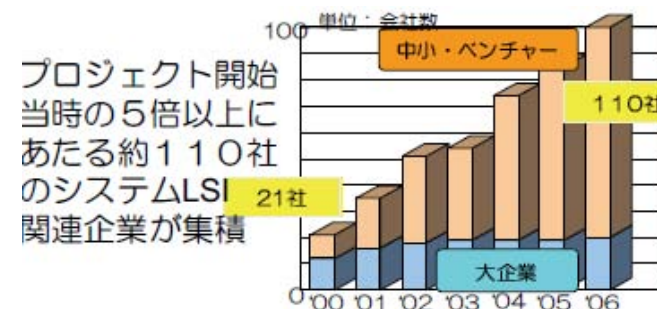
国内外にわたる地域間競争の激化する中、次世代に向けて地域経済を強力に牽引する成長産業の育成、国際競争力をもった新産業の創出を戦略的に進めていくことが必要である。そこで、福岡県内におけるシステムLSI設計分野の頭脳資源や産業集積を核に、アジア地域(韓国、九州、上海、台湾、香港、シンガポール等)を結ぶ半導体生産のベルト地帯「シリコンシーベルト」におけるシステムLSI設計開発のクラスター化を目指す「シリコンシーベルト福岡構想(SSB構想)」を産学官の総力を結集して強力に推進してきた。

SSB構想の推進にあたっては、中核機関にシステムLSI部を設置するとともに、以下に示す5つの活動を柱として積極的に展開した。

- 1. 人材育成**
システムLSI設計教育に焦点をあてた福岡システムLSIカレッジ等を設立し、これまでに約2,800名の技術者を養成してきた。
- 2. 研究開発支援**
知的クラスター創成事業を研究開発の中核事業に位置づけ、システムLSI設計開発関連の研究開発を実施するとともに、経済産業省の地域新生コンソーシアム研究事業等を活用してきた。
- 3. ベンチャー育成・支援**
福岡県、北九州市、福岡市の協力を得て創設したシステムLSIフロンティア創出事業により、中小・ベンチャー企業の製品化等を支援してきた。また、中小企業を対象にLSI設計EDAツール利用やLSIの試作費用の助成のサービスを行ってきた。
- 4. 交流・連携促進**
交流連携を促進するために、「シリコンシーベルトサミット福岡」を平成15年から開催。
- 5. 集積促進**
平成16年11月に福岡システムLSI総合開発センターが開設された。この施設はシステムLSIの人材育成、研究開発から事業展開までを総合的、一元的に支援するSSB構想の中核施設である。この目的に則して、九州大学システムLSI研究センター、福岡知的クラスター研究所(FLEETS)、福岡システムLSIカレッジ、ベンチャー企業の利用を中心とする設計・検証のための共用ラボ等を同総合開発センター内に集中配置した。



地域活性化への効果



課題とその解決に向けて

- ・国際的な競争力を持つことが課題である。
- ・そのため、人材や資金の確保、海外クラスターとの連携により、競争力をさらに強化することが必要である。